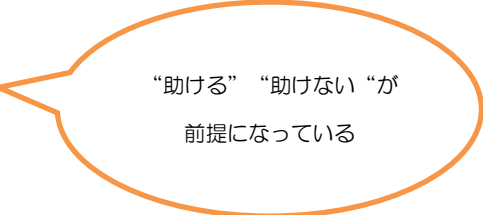


1. 問題づくりについて考える(大問題・小問題)

- 大問題をつくるにあたって、授業者の解釈から始めない

→(例)×どうして作者は助けないのか
○どうして作者は行動しないのか



- 子どもの疑問や発言をしっかり生かす
 - 整理、分類する
 - 解釈を自分の中でもう一度やり直す
- } 繰り返し練習し、力をつける!(問題づくり練習)

- 子どもに問題をつくらせることに、授業者自身、恐れない
- 自分の中で発見する、自分の中で解釈できるようにする(新たな発見を見つける)

2. 問題づくり演習

学年	教材	演習内容
1年	ゆうやけ	<p>②段落のきつねの子が言った、「いいな。とってもいい。」と、⑨段落のくまの子が言った「いいよ。とってもいい。」に関して、きつねの子やくまの子が言った“とってもいい”はそれぞれ何に対してとってもいいのかについて考えた。③段落以降のきつねの子の行動から、ズボンが一回り大きいことやポケットが2つついていることに対して、“とってもいい”と思っているのではなく、ズボンの色に対して、“とってもいい”と思っていることに気づくことができた。</p> <p>1年生は、“変だ、おかしい”ということにまず気づかせることが大切である。“変だ、おかしい”に気づかせるためには、具体的にイメージを持たせることが必要である。</p> <p>(例)③段落：きつねのこは、おがわのみずにすがたをうつして、うっとりしました。 →教師…「自分だったら、きつねの子のように行動しますか？」 子ども…「しない」「鏡はなかったのかな？」 ⇒きつねの子の行動に”変だ、おかしい”と気づく</p>
5年	大造じいさんとガン	<p>⑥段落の「いまいまして」に着目し、「いまいまして」という言葉の意味の確認と、大造じいさんが何に対していまいまして思っているのかについて、再度考えた。③段落から⑥段落の中で、残雪について押さえ、残雪がいかに“いまいまして”かを文から見つけたり、具体的にイメージを持たせたりすることが必要である。</p>

3. 戸田先生が指導された、児童の図画作品を鑑賞する